

連載

株式評論家 山本伸一の

兜町スタンダード



このまま配当狙い？それとも四季報関連？

相場は短期調整を交えつつ、順調に株価水準を切り上げてきている。弊社にも「何か良い銘柄はないですか？」との問い合わせが増加、塩漬け株の値が戻り、昨年央からの円高調整時に相場を見限っていた個人投資家も少しずつ戻ってきているようだ。

ただ、難しいのは「これから推す銘柄」の取捨選択だろう。すでに中核銘柄は第3四半期（4―12月）決算に絡んで活躍したし、ボラティリティの増した新興銘柄も値動きは不安定。局面的には出遅れ株の出番だが、さすがにこれから本格参戦する投資家には奨め辛い。

時期的には、2月権利落ちからは3月期の配当権利取り狙いに移行する。上場企業の3月期の配当総額は3年ぶりに増加する見通し。企業収益回復で株主還元姿勢の高まりを捉えるのは順当な選択肢だ。

あとは3月発売の四季報で脚光を集める銘柄を先回りで狙う方法。第3四半期の内容を織り込み、本決算に向けて「最後の上ブレ観測」や次期予想への「期待感」が材料となる。四季報での好評価を得るためには業績判断が不可欠。「無料銘柄診断」を常時受け付けている弊社に直接問い合わせしてほしい。